

岸部 一徳

川上 麻衣子

大竹 まこと

川中 美幸

平田 満

田中 美里

伊原 剛志

高梁市・岡山市オールロケ

大森青児 第一回監督作品

家族の目



家族に嵐のち 晴れの国へ!!



6/10 (金)・11 (土)・12 (日)

6/18 (土) から ロードショー

高梁市

● 地元 先行上映!!
高梁総合文化会館大ホール

岡山市

岡山メルパにて

● 特別前売券 1,100円 (税込) 絶賛発売中! (当日・一般 1,800円の処) ●

アナタの心を温かくしてくれる、 絆を失いかけた家族のひと夏の物語。

東京・新宿のマンションに住む君原家は、信介(45歳)と喜美子(40歳)、娘(14歳)、息子2人(11歳・5歳)の5人家族。

一見、ごく普通の家族だが、主の信介には大きな悩みがあった。長男の好太郎は<いじめ>の被害者、長女の絵里は逆に<いじめ>の加害者だったのだ。考え抜いた末、信介は思い切って山村過疎地への引っ越しを決める。

家族が引っ越す先は岡山県の高梁市。市が住人のいない古民家を改装して移住者を募集した場所だった。携帯の電波が入らないことで不満が募る長女、虫が怖くて仕方がない長男。体験したことのない山村暮らしから、子供達のイライラは以前にも増して大きくなる。そして父親の信介までもが、考えていた田舎暮らしと実際の生活とのギャップに戸惑うことになる。インターネットさえ繋がってれば仕事は出来る、とタカをくくっていたものの、やはり月のうち何度かは東京へ行かなくてはならないからだ。

引っ越してほどなく、君原家は「ターザン」の話の間かされる。

ターザンとは、村の中で一番高い黒雲山の中に住んでいる男のことで、一人山の中に隠れ住み、山から里に下りてきては農作物をくすねたりしているホームレスのことだった。目撃した人が少ないことから噂が噂を呼び、鶏の生肉を喰らっている怖い悪党だと言われていた。

「ターザンには気をつけなさい」と、黒雲山には近づかないように注意される君原家だったが、なぜか次男の真琴は興味を持つ。

「ターザンってなあに？」

「たしか、映画の主人公。猿に育てられた人間で、ジャングルで生活してるって。」

「猿がお母さんなの？」

想像が膨らむ真琴は、こっそり黒雲山に入りターザンと遭遇する。そしてその真琴を追って山に入った絵里や好太郎たちもまた、ターザンと遭遇することになる。

ターザンは怖い人間ではなく、山中に目立たぬように居を構え、自然の植物を食べ、自然の中でひっそりと暮らしているごく普通の無口な老人だった。四季の草花や虫たち、山に吹く風や空に輝く星、山や自然の事を熟知しているターザンは、子供たちにとって誰より魅力的な存在になっていくが、子供たちの行動を不審に思った喜美子は黒雲山に近づく事を禁止する。しかし、ターザンのことが好きだった真琴は一人で山へ入っていく。それは地元民も迷うことが多く、絶対に一人では入らない山だった。

「真琴がいなくなった！」君原家と地域の人が総出で真琴を探ることになるのだが…。

折りしも地域の一大イベント「備中たかはし松山踊り」が間近に迫っていた。

そして、祭りの当日――

爆発するエネルギーの中、何かがなくなり何かが生まれた！

ターザンとの出会い、そして地域の人たちとの出会い。
忘れていた自然の営みに触れて
君原家は真の「家族の日」を迎えることになります。



茂山慶和



伊原 剛志 田中 美里

平田 満 川中 美幸 大竹 まこと 川上 麻衣子

岸部 一徳

協力：高梁市 岡山市 たかはしフィルム・コミッション 高梁市観光協会

製作・配給：花三

2016年 / 日本 / カラー / ステレオ / 104分 ©「家族の日」製作委員会

監督：大森青児 脚本：富川元文 音楽：渡辺俊幸

kazokunohi.jp facebook.com/kazokunohi.movie #家族の日

6/10(金)・11(土)・12(日) 6/18(土)からロードショー

●地元先行上映!!
高梁市 高梁総合文化会館大ホール

岡山市 岡山メルパにて

●特別前売券 1,100円(税込)絶賛発売中! (当日・一般 1,800円の処) ●